会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回ICT活用研修WG |
| 開催日時 | 令和3年11月30日（火）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：猪俣　昇、岡村　慎一、菊池 裕生、岩﨑 千鶴、合田　美子、　　　　　　中田 明子　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計7名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計8名 |
| 議題等 | 1. 実証講座について

・本年度はデジタルコンテンツを活用したアダプティブ・ラーニング教授法の開発、それに対する実証講座を実施、その振り返りが目的となっている。昨年200校アンケートを実施し、その中から実態調査を行った。調査で得た要素を元にデジタルハリウッド、山野美容芸術短期大学の事例を中心に研修を組み立てた。研修は事前学習・対面研修・事後課題の3部構成となっている。対面研修は当初7時間を予定していたが、近年オンラインで短時間の研修が増えたこと、また短時間でより多くの検証をしたいので、3.5時間に変更した。現在1/20から2/8で候補日を何日か挙げている。事後課題のレポート提出期限は2/28を設定している。（猪俣）・対面研修の時間の変更によりシラバスも変更した。・事前課題については、石川先生のパートが90分、後半中田先生のパート90分の3時間を予定している。収録は12/9、その後編集し年内中に実証講座に参加する方に事前課題として配布したいと考えている。・石川先生内容は、TIPSの紹介、担当されている大学院での工夫について、中田先生はコミュニケーション理論の理論解説を中心に説明いただく予定。この事前課題を受けた上で対面研修を実施する。・対面研修は、前半、山野美容芸術短期大学、その他の学校のアダプティブ・ラーニングの教授法の事例紹介、各学習者の担当実技科目シラバスの中で、ログ項目、収集方法、タイミング、FB方法を具体化する時間を入れ込んでいる。ここではアクションプランシートを使用する。・後半は、中田先生に改めて理論解説をしていただき、その後はケーススタディを2本用意し演習を続ける。・前半と後半で約3時間、事後課題説明、事後アンケート・自己理解シートの記入を予定している。・事後課題については、計画を立てたアダプティブ・ラーニングの教授を実際に導入し、約1ヶ月実践、その結果をアセスメントシートで提出いただく。・ICTを活用することでアダプティブ・ラーニングの効果・効率が上がることを研修では伝えたいので、それに繋がるICTツールの使い方を動画教材としてまとめていきたい。【研修内容について】(1)ICTを活用した授業の可視化を実現するツール（石川先生） ・ICTを活用しても上手く行かないことが多いので、ベースとしてGoogleClassroomを中心にした使い方を紹介したいと考えている。GoogleClassroomの概要として、できること、どのようなツールと連携すると効果が上がるのか、利点などの説明をしていきたい。・他のツールとの連携では、spreadsheet、Youtube、Document、Formsなどツールごとにどのようなシチュエーションに有効かを紹介、そのような連携の中でどのように評価するかについてルーブリックを紹介する。参考して動画を作るための機材、収録・編集アプリについて紹介する。・GoogleClassroomの立ち上げ方、クラスの作成方法、招待方法などを説明し、その後実演をする。この説明→実演の流れで他のツールとの連携についても紹介する。・実際に担当している大学院での工夫については事例紹介として動画教材にして説明するが、事前課題なのでなるべく簡潔にまとめたい。・対面研修では事前課題のおさらい、山野美容芸術短期大学、その他の学校の事例を紹介し、どう自身の授業に組み込めるかのワークを予定している。(2)「勇気づけコミュニケーション」理論と手法を学ぶ（中田先生）・事前学習では、受講姿勢、コミュニケーションスキルの重要性、リソースとアンリソースフル、勇気づけコミュニケーションとは？、動機付けと6つの感情ニーズ、リアクタンスと自己説得、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み・偏見）、勇気づけコミュニケーションの理論を説明する。アンコンシャスバイアスではセルフチェックシートを使用し、自身のコミュニケーションに気づきを促す予定。・対面研修では、勇気づけコミュニケーションの3つの理論を元に手法を説明する。「自己決定性」では、①改定を重視したメッセージ、②能力ではなく努力に着目したメッセージを、「目的論」では、①増えて欲しい部分を指摘するメッセージ、②個人の成長に着目したメッセージ、「対人関係論」では、①貢献や協力に注目したメッセージ、②感謝を伝えるメッセージを講義する。・「自己決定性」の演習では、1つめはペアで1つの会話のセリフを読み上げ、それぞれどのような気持ちになったか、違いがあったかなどをお互いに共有。2つめは、話し手と聞き手に分かれ、仕事などでこれまでにとても頑張ったことを話し、3つのポイント相手を称えるという演習を行い、3つのポイントでどのような受け止め方の違いがあったかを共有する。3つめは1つめと同じ手法で違うパターンの会話の演習をする。4つめは個人の成長に着目した演習をする。・「対人関係論」の演習で1種類。A～Cの3つのパターンを体験していただく。・ケーススタディ①では「やる気のない学生」、ケーススタディ②では「自信がない学生」をタイトルとして実例の学生をモチーフにしたケース資料を用意する。・最後に教員自身がリソースフルになるための演習を実施し、自身が勇気づけされるのはどんな時かを考えていただき終わりにする予定。【意見等】・中田先生のパートについて、コミュニケーションを得意としない教員にとってはとても良い内容だと感じた。時間の都合もあるが、参加者の実際の事例を元に解決法を探すディスカッションがあると、すぐ次に生かそうと感じられるので、組み込めると良い。（高岡）→非常に重要なので、時間を調整してケーススタディ③として組み込めるようにしたい。（中田）→対面でやっていたことをICTに変える際の不安を除くためにもこの2つの組み合わせが良いと感じた。半面、言葉だけで変化を期待することはどうかとも感じる。シチュエーションによってコミュニケーションの取り方も変わるので、言葉だけで解決する手法と思ってしまう懸念がある。言葉よりも人間関係を重視している人もいるので反発も考えられる。（高岡）・研修の冒頭で、「この場ではまず試してください」ということをお伝えする。またアンコンシャスバイアスのパートで「自分の価値観や常識は絶対ではない」という気付きを促して、今までの自身の言動を見直すような仕掛けを組み込みたいと考えている。（中田）・言葉使いも大切だが、構えの部分が大切だということを理解していただくことで、一つの例としての会話を提供していくことが良いと感じた。（菊池）・受講者が適切な受講姿勢が取り組むことによってスッと入って欲しい。内容的にはとても良いと感じた。（岩﨑）・インストラクションデザインから見ると、自立的な学生を育成するための理論・コミュニケーションスキルという学習の目標には、自立的な部分が少し薄い感じを受けた。かつ、ICTを活用してという目標では、中田先生の理論にICTを活用する部分が見えると良い。また中田先生の自己決定性や目的論などを1枚にまとめると、ディスカッション・演習時に活用できるのではないかと感じた。ケーススタディは事前学習でもできるが、事前にデータから問題のある学生をみつけて対応策を考えるなどの課題があるとICTとリンクするのではないかと考える。（合田）→ケーススタディの際の勇気づけコミュニケーション比較を作成し用意する予定。自立的に学生の育成の部分については今後検討する。データからの読み取りについては、実際のデータで適切なものがなかったので、ダミーデータで対応したい。（中田）・とてもよくまとまっているが、合田先生と同じで、ICTとコミュケーションをどのように繋げるのか、個別のログをとって、そこから声掛け・関わりが発生するので、そのジョイントが大切。やる気がないというのはどんなログから導くのか、などがあると繋がりが出てくるのでは。会話もどんな観察から導くのか、それがログになるのではないかと感じた。（岡村）→ICTを活用した発生した問題に対して、学生に対してのコミュニケーションをコーチングの観点から中田先生にレクチャーいただくので、そのブリッジは石川先生のパートで準備する。（猪俣）・この研修を受講した後のレベル確認は、事後課題の評価測定シートで評価するのか。（上里）→効果測定のシートについては、漏れがないように今後も検討しご意見をいただきたいと考えている。（猪俣）【実証講座（研修）実施日について】・岡山情報ビジネス学院…1月20日（木）13:00～・YIC…京都で検討中・新潟…1/25～2/8の間で検討・龍澤学館、郷学舎…今後検討1. 次回ICT活用WGについて

・第5回ICT活用研修WG…1月20日（木）16:30～17:30＠岡山・第6回ICT活用研修WG…2月24日（木）16:00～18:00＠東京 |
| 配布資料 | ・実証講座資料\_20211130・対面研修教材の一部として\_AL事例資料\_2021130・自己理解シート・事後アンケート・効果測定シート・アクションプランシート |

以上